

## 山スキー実地講習（田代・神楽スキー場）報告

【山域】新潟県南魚沼：田代・かぐらスキー場

【日程】2018年12月16日(土)～12月16日(日)

【メンバー】CL 菊池・鶴田・石橋・加藤・池田・石井・井上(里)・瀧瀬・杉山(ゲレンデのみ)・会員外2名

【行程】

15日：千葉—田代スキー場駐車場—田代スキー場～かぐらスキー場で終日ゲレンデ練習—なかしま屋(泊)

16日：田代スキー場—駐車場—田代スキー場—かぐら第五ロマ周辺ショートツアー—神楽スキー場—田代スキー場—駐車場—宿場の湯—帰葉



・漸く2018-2019年山スキーシーズンインできました。当初予定していた柵池は積雪不足のため、田代・かぐらスキー場に変更、直前の寒波到来でかぐらスキー場の積雪は80cm～120cmに増加、ゲレンデはほぼ全面開放されている。他のスキー場はまだ積雪不足のため、シーズンインのこの時期はこのエリアにスキー客が集中、1日目(15日)のかぐら駐車場はめちゃ混みのため、田代スキー場の駐車場に8:30頃到着したが、ここもほぼ満杯の状態であった。宿は二居の「なかしま屋」、ナイスエッジが良く利用す

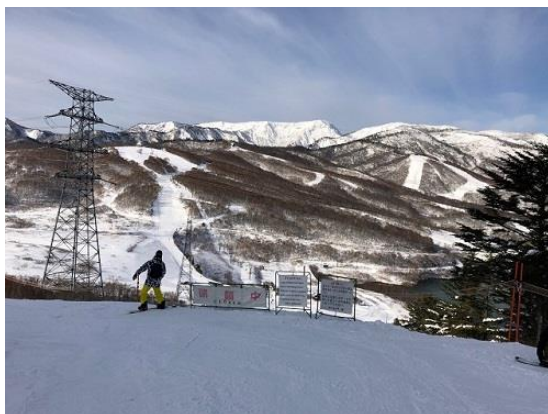
る民宿で、我々も昨年の東谷山・平標山スキーの時から利用しているが、食事が素晴らしい人気の宿です。スタート前に宿に寄り割引の2日券を購入してスタートした。

- ・1日目は2班の分け、弱点矯正を目的に、各人にアドバイスを繰り返しながら主に田代エリアのゲレンデを滑りまわりました。冬型は弱まっていたが、小雪が舞う低温の中、風は弱く雪質は滑りやすいパウダースノーです。午後は雪も止み晴れ間も覗く好コンディション、わが会最高齢者の(79才)のTさんも、後傾になりすぎ、ストックが後ろにひける弱点が矯正され田代湖・谷川連峰をバックにこんな素晴らしいショットを披露し



ていました。四国から遠路お越し下さった山スキー仲間のOさんと小生はAT仕様でメンバーにアドバイス、小生は午後からテレマークに変え緩斜面の非圧雪バーンを滑ってみた。新雪が40~50cmと深いが低温でそれほど重くないため、センター88mmのG3でも、斜度が増すところではなんとかニヨロニヨロターンができた。

- ・2日目は移動性高気圧になり晴れベース、かぐら第五ロマ周辺でのショートツアーを目標に、この日も田代から入山した。ロープウェイを降りると苗場山・神楽峰が見渡せテンションアップ。

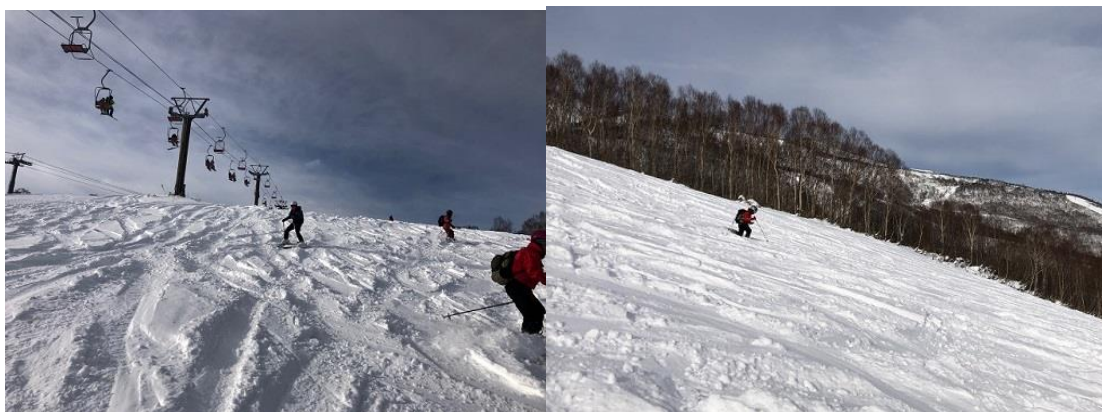


かぐらエリアに向かう前に記念撮影して、先ず小生が昨日試滑走した非圧雪バーンでメンバーの状況を試してみた。食い荒らされた非圧雪バーン、前日より圧密されたがフ

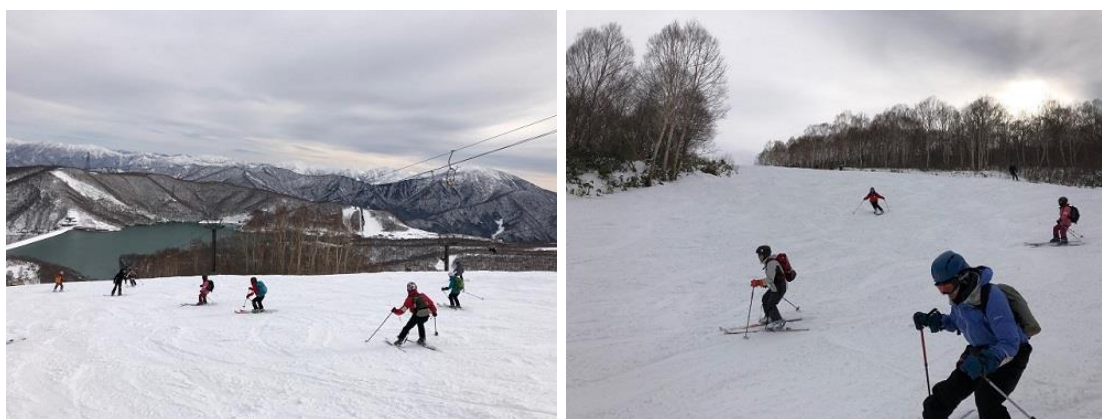


ワフワ感が十分残り、皆さん気持ちよさそうにこなしていた。颯爽とゲレンデを気持ちよく滑走する女性最高齢(77才)のSさんを除き、なんとか全員でショートツアーに行けそうであると判断した。

四国のOさんとは2007年GWに槍ヶ岳・飛騨沢山スキーに偶然に遭遇、その後わが会の山スキーツアーに度々ご同行頂いている。小生のテレマーク滑走に衝撃を受け2年後にはテレマークにはまってしまいました。小生もOさんもSAJ1級のため、テレマーク技術の習得はそれほど苦勞せず、深雪パウダーのツリーランを楽しむようになりました。Oさんもこの日はテレマーク仕様です。

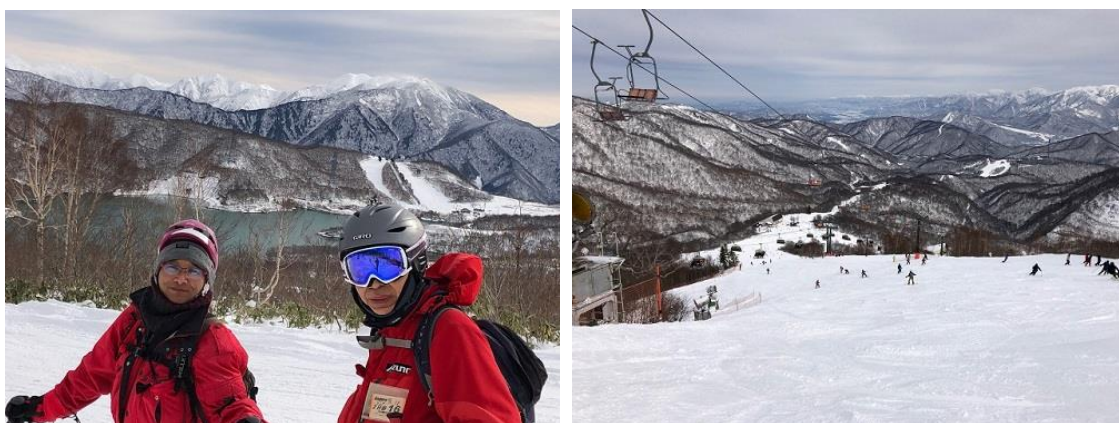


深雪滑走のポイントは片足加重にならないように、浮き沈みを大きくし、靴底でしっかり板を踏み込み、リズムに乗ることが重要です。Oさん、その感触を確かめながらの緩斜面テレターンを楽しんでいます。かぐらエリアに向かいますが、滑りやすい雪質に皆さん前日のワンポイントアドバイスを確認しながら気持ちよく滑走しています。



急斜面・固いバーンでの安定した滑走ができるか否かが、上手い下手の違いが出ます。テレでは後ろ足での抑えがしっかりできるか否かがポイントです。ATでも同様に重心が足の土踏まずにいつもあるように意識できるような体勢が重要です。重心が前過ぎたり、後ろ過ぎたりでは安定しません。特に急斜面でしっかりスピードコントロールできるように練習することが山スキーでは特に重要です。それらのポイントを確かめたり、横滑りで高度を下げたり練習しながらかぐらエリアに向かいました。かぐらエリアに

はもう少しで到着です。田代湖と真っ白な谷川連峰をバックに一息ついて記念撮影です。ゲストの宇都宮のIさんと四国のOさんです。いつもかぐらエリアの山スキーに入っ  
てしまい、ゲレンデをじっくり楽しむことはありません。こんな広大で変化に富んだか  
ぐら・田代エリアは眺望も素晴らしく日本一のBCエリアであると感じています。11時過  
ぎ、かぐらのメインゲレンデに到着しました。中急斜面の広大な素晴らしいバーンです  
ね。既に大勢の方々が滑走しています。固い急斜面、しっかりスピードコントロールで  
きるショートターン、板をしっかり踏み込んで安定した中ターンで和田小屋下のかぐら  
第一高速リフト乗り場に向かいました。

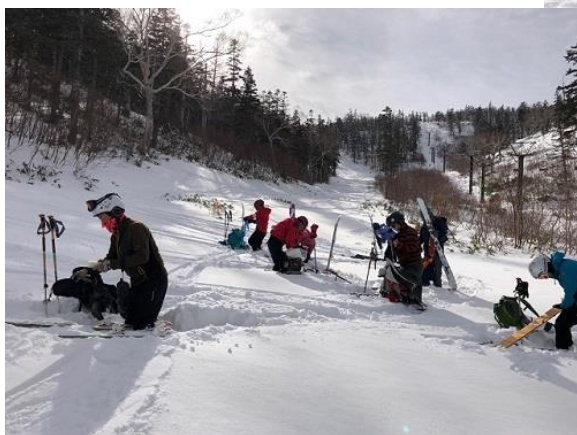


・第一高速のトップです。これから第五ロマ付近へのショートツアーです。シラビソ林を  
突破していくトレースがありますが、まだ積雪が少なく苦労したでしょう。





記念撮影の後、ゲレンデ滑走のみの S さんを除いた 10 名でスタートです。まずは、第五ロマ乗り口まで滑走します。まだまだ積雪不足で中尾根へのツアーは無理ですね。あとふた降り位は欲しい状況です。フワフワの感触を確かめながら、ノトラの狭いエリアを数ターン気持ちよくテレターンできました。今期初のこのパウダーランの感触に、「漸くパウダー



シーズン到来したなあ」と小生はもう大満足です。五ロマ乗り場には 3 名の方が滑り終えて休憩していました。今シーズン初のシール登行が始まります。板を外すと膝位まで埋まり結構深いパウダーですね。積雪の多いシーズンですと、立山初滑りの時期と同じ頃に、ここからハイクアップしてショートツ

アーを楽しむことができるようで、知り合いの群馬の S さんからの報告をよく目にしました。まだクローズのゲレンデにはかなりのシュプールが見られますが楽しめそうです。上から若い 3 名が気持ちよさそうに滑り降りてきました。

サイドはまだ笹が埋まっておらず無理なようです。気がはやるのは小生だけか！！？？

ノトラエリアを温存するため滑走シュプールを辿って小生がトップでシール登行開始します。急斜面のシール登高は厳しいので右のシラビソ林に最年少の I さんをトップにラッセルしていただきました。今シーズン初シール登行で、まだ少ししか登っていません

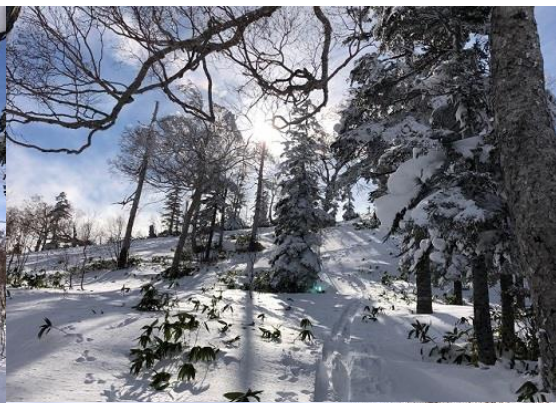




が結構息が上がります。ゲレンデ脇の自然はこんな感じで気持ちよくつい笑みがこぼれますね。クローズゲレンデに戻り進みます。最年少 49 才の I さんはグングン先を進みます。「若いって素晴らしい」という歌がありましたね？結構シュプールがありますが、まだまだパウダーランは楽しめそうでテンションが否が応でもアップしますね！！しっかりした先行トレースを辿って気持ちよくハイクアップです。これぞ BC の醍醐味ですね！



急斜面のゲレンデ登りはきついため、トレースを辿ってこの素晴らしい右方向に進路を変えます。この辺ももう一降りですれそうですがまだ無理ですね。ゲレンデルートを忠実に滑走せねばなりませんね。



元気な I さんは急なゲレンデルートを進んでまもなく到着のようですが、他のメンバーは小生に追隨して楽なルートで登りました。再びゲレンデに出て最後の登りです。12～13本のシュプールが刻まれています。ノトララインはなく、少し藪が出ており、ウネリ





もありますが雪質が良く楽しめそうです。15年以上前から、かぐらには単独でパウダー練習によく通いました。第五ロマは、今期は1月1日から運転すること、以前は3月初めから、徐々に運転開始が早まり、BCには好都合ですが、気軽に入れるため遭難も多く、第五ロマトップには間もなくゲートが設けれて、計画書の提出とビーコンの携帯が必須となります。若い頃はファーストラックを狙い、第一高速トップから激ラッセルを頑張り、この手前の急斜面の登りでは膝上から腰ラッセルに大汗をかいた思い出が蘇ります。間もなく五ロマトップに到着します。振り返ると上越の山々の素晴らしい景色が広がっています。



・標高差 200m をハイクアップしました。稜線まで足を延ばした先行者が下ってきましたが、シーズン初めのショートツアーとしては、ここまで十分、15分ほどの行動食摂取と滑走準備の後、記念撮影をしいよいよ待ちに待った初パウダーランです。始めは藪が少し出ている不整地から急斜面下までは小生が誘導しその後は、四国のOさん、最年少のIさんと小生が順番に



トップと最後尾を滑走、メンバーの滑走写真を撮りながら下った。四国のOさんのテレターンです。後続メンバーも無難に滑走しています。Oさんの手袋はBCジャンルで人気の青い防寒テムレスですね。小生も今回は終始使用しました。最近黒バージョンが発売され大人気です。ナイスエッジ <http://niceedge.jp/> で扱っており小生



も頼みました。今度はOさんトップで気持ちよくテレターンを刻んでいきます。小生のスタート直後のショットです。右手が中に入り込む悪い癖が出ています。少しでもノートラエリアを物色して大木ギリギリのラインを滑走しました。シーズン初めの雰囲気が出ていますね。



深雪経験の少ないメンバーも無難に滑走しほっと一息、メインゲレンデに向かう、狭くて結構急な片斜面の長いルートは斜め横滑りが良いが、疲れているメンバーは難儀していた。田代ゲレンデに戻ってくる頃、こんな綺麗な雲と青空の共演が見られました。

ロープウェイ上駅から見える平標から谷川連峰の山々が印象的でした。かぐらは小生のBC練習、特にパウダー練習のホームゲレンデで新幹線やマイカーで頻回に通ったエリアです。中尾根まで3往復して和田小屋までパウダーランを楽しめた50才台前







半もあったのだと懐古主義に浸りながら、あと一か月余りで古希となるが、このエリアに自ずから回帰したい気持ちが湧いてきました。メンバー全員が大満足の二日間でした。